2025年度秋学期

# 応用数学(解析)

第2部・基本的な微分方程式 /

第6回

変数分離形の変形



関西大学総合情報学部 浅野 晃

変数分離形(復習)

## 変数分離形

一般には g(x)x' = f(t)

$$x' = rac{dx}{dt}$$
とすると  $g(x)dx = f(t)dt$ 

両辺それぞれを  $\int g(x)dx = \int f(t)dt + C$ 

一般解に含まれる積分定数 C は、 初期値を代入して定まり、特殊解が得られる

今日は,変形によって変数分離形に持ち込める方程式です

1. 同次形 99

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 3 ▮ 22

#### 同次形

一般には 
$$\left(\frac{dx}{dt}\right) = f(\frac{x}{t})$$
 x/t の式になっている

$$\dfrac{x}{t}=u$$
 とおくと  $x=ut$  この両辺を微分  $\dfrac{dx}{dt}=t\dfrac{du}{dt}+u$  積の微分

よって 
$$t \frac{du}{dt} + u = f(u)$$
 
$$\frac{1}{f(u) - u} du = \frac{1}{t} dt$$
 変数分離形になった

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

#### 同次関数

関数 M(x,t) が k 次の同次関数であるとは

 $M(ut,t)=t^kM(u,1)$  の形になっていること  $t^k$  をくくり出せる

微分方程式が 
$$rac{dx}{dt} = rac{M(x,t)}{N(x,t)}$$
 の形で

M、N がどちらも k 次の同次関数なら, x = ut とおいて

$$egin{aligned} rac{dx}{dt} &= rac{M(x,t)}{N(x,t)} \ &= rac{t^k M(u,1)}{t^k N(u,1)} = rac{M(u,1)}{N(u,1)} = rac{M(rac{x}{t},1)}{N(rac{x}{t},1)} \end{aligned}$$
 前ページの形になる

2025年度秋学期 店用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

#### 例題

$$x' = \frac{t-x}{t+x}$$
 を解いて、一般解を求めよ。

分母分子を 
$$t$$
 でわると  $\dfrac{dx}{dt} = \dfrac{1-\dfrac{x}{t}}{1+\dfrac{x}{t}}$  【同次形】

$$\frac{x}{t} = u$$
 とおくと  $x = ut$  より  $\frac{dx}{dt} = t\frac{du}{dt} + u$ 

よって 
$$t\frac{du}{dt} + u = \frac{1-u}{1+u}$$
 
$$\frac{1}{\frac{1-u}{1+u} - u} du = \frac{1}{t} dt$$
 
$$t \ge u$$
 を分離 
$$\frac{u+1}{u^2 + 2u - 1} du = -\frac{1}{t} dt$$

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

#### 例題(続き)

$$x' = \frac{t-x}{t+x}$$
 を解いて,一般解を求めよ。

微分の関係に 
$$u+1$$
  $du=-\frac{1}{t}dt$ 

ここで  $u^2 + 2u - 1$  の微分が 2(u + 1)になるから,上の式の両辺を積分すると

$$\frac{1}{2}\log(|u^2+2u-1|) = \log|t| + C$$
 対数の和 → 真数の積 
$$\log(|u^2+2u-1|) = \log(A|t|^{-2})$$
 対数の一倍 → 真数の一乗 
$$t^2(u^2+2u-1) = A$$

定数は任意なので,絶対値が外れる

$$u = \frac{x}{t}$$
 に戻すと  $x^2 + 2tx - t^2 = A$ 

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 8

2.1階線形

## 1階線形微分方程式

一般には 
$$\frac{dx}{dt} + P(t)x = Q(t)$$
 の形になっているもの

$$p(t) = \exp\left(\int P(t)dt\right)$$
 とおくと,一般解は  $x = \frac{1}{p(t)}\left(\int p(t)Q(t)dt + C\right)$ 

#### なぜならば

$$\begin{split} (p(t)x)' &= (p(t))'x + p(t)x' \\ &= \left[\exp\left(\int P(t)dt\right)\right]'x + p(t)x' \\ &= p(t)P(t)x + p(t)x' \\ &= p(t)\left\{P(t)x + x'\right\} = p(t)Q(t) \end{split}$$
指数の合成関数の微分

よって,両辺を積分して 
$$p(t)x = \int p(t)Q(t)dt + C$$

#### 例題

$$x'+x=t$$
 を解いて,一般解を求めよ。

$$rac{dx}{dt} + P(t)x = Q(t)$$
 にあてはめると  $P(t) \equiv 1$ ,  $Q(t) = t$ 

よって 
$$p(t) = \exp(\int P(t)dt)$$
とすると  $p(t) = \exp(\int 1dt)$ 

よって 
$$p(t) = \exp\left(\int P(t)dt\right)$$
とすると  $p(t) = \exp\left(\int 1dt\right)$  前ページの式から  $p(t) = \int P(t)Q(t)dt + C$   $e^{t+C_1} = e^{C_1}e^t$   $C_2e^tx = \int C_2e^ttdt + C_3$ 

$$C_2 e^t x = \int C_2 e^t t dt + C_3$$

$$\frac{C_3}{C_2} = C \longrightarrow e^t x = \int e^t t dt + C$$
部分積分  $= (e^t t - \int e^t dt) + C$ 

$$x = t - 1 + Ce^{-t}$$

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 見 11 ▮ 22

2′.ベルヌーイの微分方程式🧐

## ベルヌーイの微分方程式

一般には 
$$\frac{dx}{dt} + P(t)x = Q(t)x^n$$
 の形  $(n \neq 1)$ 

 $u=x^{1-n}$  とおくと1階線形微分方程式に変形できる

なぜならば

#### 例題

$$x' + tx = tx^2$$
 が1階線形微分方程式で表せることを示せ。

$$u=x^{-1}$$
とおく
両辺の対数をとると  $\log u=-\log x$ 
両辺を  $t$  で微分すると  $\frac{u'}{u}=-\frac{x'}{x}$ 
両辺を  $x$  で割ると  $\frac{x'}{x}+t=tx$ 
 $-\frac{u'}{u}+t=\frac{t}{u}$   $u'-tu=-t$  **1階線形**

#### 演習問題の解説等

## 演習問題(1)

$$x' = \frac{x-t}{2t}$$
 の一般解を求めよ

与式の右辺の分母分子を t で割ると,  $x' = \frac{\frac{x}{t}-1}{2}$  となるので, 同次形の微分方程式

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 16 ▮ 22

#### 演習問題(1)(続き)

$$x' = \frac{x-t}{2t}$$
 の一般解を求めよ

$$t\frac{du}{dt} + u = \frac{u-1}{2}$$
 より  $t\frac{du}{dt} = -\frac{u+1}{2}$  なので

$$\frac{du}{u+1} = -\frac{dt}{2t}$$
と変数分離できる

両辺を積分すると 
$$\int \frac{du}{u+1} = -\frac{1}{2} \int \frac{dt}{t}$$

#### 演習問題(1)(続き)

$$x' = \frac{x-t}{2t}$$
 の一般解を求めよ

$$\int \frac{du}{u+1} = -\frac{1}{2} \int \frac{dt}{t} \, \mathbf{L} \mathbf{b}$$

$$\log |u+1| = -\frac{1}{2} \log |t| + C (C は定数)$$
 
$$u+1 = \pm e^C |t|^{-\frac{1}{2}}$$
 
$$\log |t|^{-\frac{1}{2}}$$
 と表せる 
$$\log e^C$$
 と表せる 
$$\pm e^C = A$$
 とおくと  $u+1 = A|t|^{-\frac{1}{2}}$ 

### 演習問題(1)(続き)

$$x' = \frac{x-t}{2t}$$
 の一般解を求めよ

$$u+1 = A|t|^{-\frac{1}{2}} \, \text{LU} \, u = -1 + A \frac{1}{\sqrt{|t|}}$$

$$u = \frac{x}{t}$$
 とおいていたので、これを代入すると  $\frac{x}{t} = -1 + A \frac{1}{\sqrt{|t|}}$ 

すなわち, 一般解は 
$$x = -t + A\sqrt{|t|}$$

### 演習問題(2)

tx' - x = 1 の一般解を求めよ

与式より 
$$x' - \frac{x}{t} = \frac{1}{t}$$

与式より  $x'-\frac{x}{t}=\frac{1}{t}$ 1階線形方程式の一般形 x'+P(t)x=Q(t) にあてはめると  $P(t)=-\frac{1}{t},\ Q(t)=\frac{1}{t}$ 

$$p(t) = \exp\int P(t)dt$$
 とおくと, $p(t) = \exp(-\int \frac{1}{t}dt)$  
$$= \exp(-\log t + C_1)$$
 
$$= \exp(\log t^{-1}) + C_1)$$
 
$$= \exp(\log t^{-1}) \exp(C_1)$$
 
$$= C_2 \frac{1}{t}$$
  $(C_1, C_2$  は定数)

## 演習問題(2)(続き)

tx' - x = 1 の一般解を求めよ

$$p(t)x = \int p(t)Q(t)dt + C$$
 となることから( $C$  は定数)  $Q(t) = \frac{1}{t}$  より

$$C_2 \frac{1}{t}x = \int C_2 \frac{1}{t} \cdot \frac{1}{t}dt + C_3$$
 
$$\frac{1}{t}x = \int \frac{1}{t^2}dt + C_4 \qquad (C_3, C_4, C \text{ は定数})$$
 
$$\frac{1}{t}x = -\frac{1}{t} + C$$
 
$$x = -1 + Ct$$
 すなわち、一般解は  $x = -1 + Ct$ 

2025年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 21 2

## 今日のまとめ

同次形 1階線形 ベルヌーイ

(025年度秋学期 広用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 22 22